

工夫を行う観点	ご意見
④ 耐久性、維持管理、更新性に配慮した施設整備	< 建築計画 > 教室は転用や用途変更等にも対応できるようにするなど可変性を考慮した計画とすること 1 教室を柔軟に活用できるように、広さを自由に変更できるフリースペースの検討。 2 間仕切りの利用で教室の数を増やしたり広くしたりできる教室。 3 児童生徒数など状況は今後も変化が想定されるため、教室転用や用途変更等にも対応できる可変性のある施設整備が望まれる。 4 HR教室や特別教室の可動式間仕切りの設置（教室スペースの有効活用） 5 衛生管理： 不燃物や粗大ゴミを回収日まで保管できる、ゴミ分別のための専用スペースを確保する。 6 地域や（様々な障害や病気にも対応可能な）福祉避難所に活用可能な安全性の高い設計。 < 構造・設備計画 > 多様な機器を日常的に活用することを踏まえた電源設備等の整備や空調等の維持更新や改修のしやすさを考慮した計画とすること 1 環境に優しい県産材を使用した、内装の木質化をして、児童・生徒の心も安定することを期待します。 2 耐震性、防火性があること。太陽光を利用して、発電機能が備わっている。壁や床は耐久性のある資材を利用。空調は一括管理で廊下も温度差がないようにする（体温調節がしにくい児童生徒もいる） 3 医療機器、ICT機器、姿勢保持装置等、多様な機器を日常的に活用することを踏まえ、電源設備や通信環境について十分な整備を行うとともに、将来的な機器更新にも柔軟に対応できる施設計画が必要である。 4 医療的ケアや車椅子使用への対応に伴い、一般校以上に設備の維持管理が重要となることから、教職員の負担軽減や安全確保の観点を踏まえ、清掃、点検、修繕等を行いやすい構造について検討する必要がある。 5 長期的な学校運営を見据え、空調、照明、給排水設備等についても、更新や改修が段階的にを行いやすい施設構成とすることが望まれる。 6 空調と断熱： 二重扉の導入や全館冷暖房により、酷暑や寒さに対応できる環境を作る。 7 耐久性とメンテナンス： 児童生徒が不穏になった際の破損や怪我を防ぐため、耐久安全性のある窓ガラスや壁、滑りにくい床材を採用する。抗菌性、メンテナンス性の高い素材の採用。 ※清掃・消毒・メンテナンスの容易化 8 清掃・消毒が容易な材質と構造: 日常的な衛生管理を徹底しつつ、教職員の清掃負担を極力軽減できるよう、汚れが落ちやすく、消毒液による劣化が少ない材質や、水洗いが容易な床・壁面設計とする。 9 故障を防ぐ長寿命化設計（メンテナンス容易性と耐久性の重視）：エアコンやトイレなどの基幹設備は、いざという時に使えなくなったり、頻繁に故障したりするデリケートな機種を避け、清掃や定期的な保守メンテナンスが容易で壊れにくい、耐久性の高い設備を選定する。 ※大容量電力の確保と省エネ・環境配慮（SDGs）の両立 10 十分な電気容量（インフラ）の確保: 多数の医療機器やケアグッズの同時使用に加え、全校一斉にエアコンを稼働させてもブレーカーが落ちない、極めて余裕のある電力供給インフラを整備する。 11 LED照明と調光・調色機能: 天井が高くなる特別支援学校の構造を考慮し、電球交換の手間（維持管理）を大幅に減らせるLED照明を基本とする。さらに、視覚過敏の児童生徒の特性や活動内容に合わせて「照度が変更できる（調光機能）」仕様が望ましい。 12 自然光の活用と遮光の自動化: 電気代（ランニングコスト）を抑制し、明るく開放的な室内を作るため、天窓（トップライト）等からの効果的な自然採光を取り入れる。窓には、遮光を円滑に行える「自動ブラインド」の設置、またはカーテンの場合は「防災加工」を必須とする。

工夫を行う観点	ご意見
④ 耐久性、維持管理、更新性に配慮した施設整備	13 奈良養護のプールは複数年にわたり使用ができずにきています。そのようなことが起こらないよう修理等に汎用性のある設備を求めている。 <外構計画> 1 天然芝の屋外運動場（地下のスプリンクラー設置） ➡ 気温への配慮、怪我リスクの低減 2 酷暑対策（屋根の設置やアスファルトに防熱塗料を塗るなど） <全般> 1 新設校については、建設時だけではなく、将来的な維持管理及び更新費用まで見据えた計画が必要であると考えます。 新設校へは目玉政策の一つとして多額の予算を投入し、「建設して終わり」ということではなく、今までの県立高校や養護学校のような状態にならないよう、将来にわたり維持管理が継続できる体制整備まで含めて計画すべきと考えます。